# 増え続ける怖い梅毒

奥州保健所性感染症情報

　主に性行為によって伝播する感染症を性感染症と呼んでいます。一般的な性感染症は、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、梅毒、HTLV-1感染症（HIV）があります。稀ですがB型肝炎やC型肝炎ウイルスも性行為で移ります。最近話題になり四類感染症に指定されたエムポックス（サル痘）も性行為で感染する可能性があります。よく知られていないのが、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症（子宮頸がん関連ウイルス）も性行為で感染します。厚生労働省性感染症ホームページ（[性感染症 ｜厚生労働省 (mhlw.go.jp)](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/)）を見てもHPV感染症のことは記載されていません。子宮頸がん関連ウイルスとして知られているHPV感染症が性感染症であるとの国民の認識は薄いようです。それは、HPV感染しても無症状で、十数年後に一部の女性に子宮頸部異型上皮として診断され初めて判明するためであり、HPV感染症自体についてはあまりよく知られていないからです。尖圭コンジローマがHPV6型と11型による感染症であり、子宮頸がん関連HPVは16型や18型などです。尖圭コンジローマがHPV感染症を代表してその流行状況（有病率等）を推測できるかどうかも明確なことは言えません。

　そんな性感染症の中で急増した昨年以上に増加しているのが梅毒です。胆江地区でも発生が報告されています。国立感染症研究所でも事の重大さを認識して、「日本の梅毒症例の動向について」（[日本の梅毒症例の動向について (2023年7月5日現在) (niid.go.jp)](https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrs/7816-syphilis-data-20180105.html)）と特別サイトを設けました。そのサイトのデータを分析してみました。男女異性間と男性同性間での推定感染者報告数が下図の通りです。圧倒的に男性異性間で多く、女性や男性同性間では無症状者が多く、積極的に検査を受けていると推定されます。危険を知りつつも性欲にかられ理性を失って予防対策を適切に取らないことが推測されます。

先天梅毒は、梅毒に感染した母体から胎盤を介して胎児に梅毒トレポネーマが感染することにより、母体のいずれの病期でも起こり得ます。 出生時は無症状のことが多いのですが、早期先天梅毒では、生後数ヶ月以内に水疱性発疹、斑状発疹、丘疹状の皮膚症状に加え、全身性リンパ節腫脹、肝脾腫、骨軟骨炎、鼻閉などを呈します。梅毒感染女性（未治療）の妊娠、妊娠中の性行為による梅毒感染には更なる注意が必要です。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2022年 | 2022年 | 2022年 | 2022年 | 2023年 |
|  | **第1四半期** | **第2四半期** | **第3四半期** | **第4四半期** | **第1四半期** |
| 先天梅毒 | **4** | **6** | **5** | **5** | **6** |

年齢階級別で見ると、女性は20歳代前後に多いが、男性は20歳代以降に多く、性活動の男女差が窺われます。性風俗産業に従事しているのは主に女性で、梅毒感染者の4割程を占めます。男性はその利用者で、梅毒感染者の4割程を占めます。男女とも3割程は性風俗産業とは無関係で、市中感染が推定されます。対策として性風俗産業従事女性の定期的検査、コンドーム着用を推奨します。希望としては性欲だけではなく、理性を働かせて少子化対策として真面目に妊娠・出産、子づくりを考えていただきたいところです。

都道府県別では大都市圏に多いが、2023年第1四半期人口100万当たりで見ると、大都市圏以外の岡山県、広島県、徳島県、香川県、熊本県、宮崎県、鹿児島県が多いことが分かりました。



アメリカでも梅毒は増加しています。人口100万人当たりで見ると日本の8倍もの報告数があります。先天梅毒も2021年には2,855人が報告されています。他の性感染症では淋菌感染症が増加しています。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 梅藤 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
| 日本 | 5,826 （47.4） | 7,007 （57.0） | 6,642 （54.0） | 5,867 （47.7） | 7,978 （64.9） |
| USA | 101,590 （298.8） | 115,052 （338.4） | 129,818 （381.8） | 133,954 （394.0） | 176,713 （519.7） |

（注：カッコ内は人口100万人当たり）

県民の皆様、特に若い世代の方々へのお願い

　国、県が少子化対策に真剣に取組んでいます。国民、県民も妊娠、出産、子育てについて真剣に考える義務があると考えます。母子保健で様々な事例の対応に当たっていますが、可能であれば「望まない妊娠」、「望まない出産」は避けるべきです。関係者すべてが不幸になります。そのために、性交渉、性欲に関して理性を働かせて再考して頂きたいと希望します。

参考：

1）IASR Vol. 41, No.1 (No. 479) January 2020　特集「梅毒」

[IASR Vol.41, No.1 (No.479), January 2020 梅毒 (niid.go.jp)](https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-vol41/9341-idx479.html)

2）日本の梅毒症例の動向についてNotification Trends Among Syphilis Cases in Japan

[日本の梅毒症例の動向について (2023年4月5日現在) (niid.go.jp)](https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-idwrs/7816-syphilis-data-20180105.html)

3）CDC：Sexually Transmitted Disease Surveillance 2021

[Sexually Transmitted Disease Surveillance, 2021 (cdc.gov)](https://www.cdc.gov/std/statistics/2021/default.htm)